

## 2017年1月1日～2021年12月31日の間に 当科において糖尿病の治療中にすい臓がんと診断された方及び ご家族の方へ

「糖尿病患者における膵癌発生リスクに関する後ろ向き観察研究（二次調査）」へのご  
協力をお願い

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者	川崎医科大学	糖尿病・代謝・内分泌内科学	教授	金藤 秀明
研究分担者	川崎医科大学	糖尿病・代謝・内分泌内科学	臨床助教	伏見 佳朗
	川崎医科大学	糖尿病・代謝・内分泌内科学	臨床助教	真田 淳平
	川崎医科大学	糖尿病・代謝・内分泌内科学	臨床助教	片倉 幸乃
	川崎医科大学	糖尿病・代謝・内分泌内科学	講師	木村 友彦
	川崎医科大学	糖尿病・代謝・内分泌内科学	講師	辰巳 文則
	川崎医科大学	糖尿病・代謝・内分泌内科学	講師	下田 将司
	川崎医科大学	糖尿病・代謝・内分泌内科学	准教授	中西 修平
	川崎医科大学	糖尿病・代謝・内分泌内科学	教授	宗 友厚

### 1. 研究の概要

すい臓がんの予後は現代医療においても不良であり、予後を改善するためにはすい臓がんの早期発見および治療開始が重要となります。しかし、すい臓がんの早期発見方法は未だ確立していません。

すい臓がんと糖尿病には関連があることが過去の報告でされており、糖尿病の新規発症や悪化をきっかけにすい臓がんが発見されるケースも多く存在しています。

この研究では、糖尿病に合併したすい臓がん患者の実態を明らかにし、糖尿病に着目することですい臓がんの効率的な早期発見を行えるようにすることを目的としています。

この研究は東北大学を中心に全国規模で行われている調査となります。

### 2. 研究の方法

#### 1) 研究対象者

2017年1月1日～2021年12月31日の間に川崎医科大学附属病院 糖尿病・代謝・内分泌内科において糖尿病の治療中、すい臓がんの診断を受けた方を研究対象とします。

#### 2) 研究期間

2022年10月1日～2027年9月30日

### 3) 研究方法

上記の研究対象期間中、糖尿病を治療中にすい臓がんを発症された方で、すい臓がんの病期と下記 4) に記載のある項目における関連について、既存のデータを用いて解析を行います。

### 4) 使用する情報の種類

性別、喫煙歴、飲酒歴、膵疾患の既往、膵癌の家族歴、糖尿病の分類、インスリン治療、糖尿病診断から膵癌診断までの期間、膵癌の診断契機、膵癌診断時の症状、膵癌診断時の病期、血液検査のデータ 等

### 5) 外部への情報の提供

この研究に使用する試料・情報は、以下の共同研究機関に提供させていただきます。提供の際、氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し、提供させていただきます。

東北大学大学院医学系研究科 消化器病態学分野

### 6) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2027年9月30日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

#### < 問い合わせ・連絡先 >

川崎医科大学附属病院 糖尿病・代謝・内分泌内科

氏名：伏見 佳朗

電話：086-462-1111 内線 27512 (平日 9時00分～17時00分)

E-mail：tounai@kawasaki-m.ac.jp

#### < 研究組織 >

研究代表機関名 東北大学大学院医学系研究科 消化器病態学

研究代表責任者 東北大学大学院医学系研究科 消化器病態学 教授 正宗淳

共同研究機関 なし

(既存)情報の提供のみを行う機関

日本糖尿病学会認定教育施設、および教育関連施設(資料2 日本糖尿病学会認定教育施設一覧参照。一覧のうち連携教育施設(小児科)は除く)のうち、一次調査で膵癌合併症例ありと報告した施設。

(申請時点で一次調査が進行中であるため、上記のように記載しています。)

### 3. 資金と利益相反

この研究において、資金の受入及び使用はありません。

研究をするために必要な資金をスポンサー(製薬会社等)から提供してもらうことにより、その結果

の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。

本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。